

(一財)全国地域情報化推進協会 御中				報告日	2022年2月1日
				派遣決定番号	██████████
地域情報化アドバイザー制度活用報告書（3日目）					
地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。					
記					
1. 申請団体情報					
1-1. 申請団体					
団体名	竹原市			代表者名	今榮 敏彦
担当者部署	総務企画部			連絡先電話番号	0846-22-7729
担当者役職	主任主事	担当者氏名	上田 尊史	連絡先E-mail	██████████
住所	725-8666 広島県竹原市中央5丁目1番35号				
2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望 支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。					
アドバイザー	原田 智				
評価	大変よい				
上記評価の理由 (どのようなところがよかったか等詳細に)	そもそもDXとはなにかということから、国の取り組みと情勢、自治体DXの推進等について具体的な事例を交えながら、講演していただいた。				
アドバイザーへの要望事項	講演会終了後回収したアンケートについて、質問が出てきております。取りまとめて送付させていただきますので、ご回答をいただければと思います。				
3. 地域情報化アドバイザー派遣実績					
	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2022年1月21日	10時30分	15時00分	90	180
3-2.	会場名	竹原市役所		最寄駅	竹原駅
派遣場所	所在地	竹原市中央5丁目1番35号		最寄駅からの交通手段	徒歩5分
	派遣形態	講演(オンライン)			
4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可					
掲載許可	<input checked="" type="checkbox"/> 掲載可				
5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果					
5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】			人数	
	竹原市職員			30人	
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果					
事業の課題・問題点 (具体的に記入下さい)	DX推進について、異なる部署が一体となり、全庁的に取り組む必要があるが、各部・課において温度差があるため、DX推進体制を効果的に運用していくことが課題である。また、DXの政策としてどのようなものを打ち出していけばいいかが問題である。				
支援により目指す成果 (具体的に記入下さい)	DX推進体制を効果的に運用し着実にDXを推進していく。				
アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的に記入下さい)	DXの進め方や政策について、国の動向や他市町の事例などを交えながら講演していただいた。				
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的に記入下さい)	講演を受ける前までは、市職員の中でDXについて認識の差があり、そもそもDXとは何なのかよくわからないという職員も多くいたが、講演を受けてある程度DXについて理解することができた。また、今までDXについて非常に重いものとして考えていた職員も多くいたと思うが、どのような考えで何をしていけばいいか、ある程度の方向性をイメージできた。				
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。			⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的に記入ください)	講演会で得たものをどのように活用していくかということ、今回はコロナ禍ということもあり、人数を絞って開催したため、出席できなかった職員に対し認識の共有を図っていくことが課題である。				

アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。）アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>今回の講演会の内容についての理解度と満足度を確認するアンケートを実施した。理解度については87%の職員が概ね理解できた以上の回答であり、残りの13%がどちらともいえないとのことだった。満足度については77%の職員がやや満足している以上の回答であり、21%がどちらともいえない、2%がやや不満と回答していた。</p>	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	⑤その他
事業の最終的な目指す姿	DXについて、予算化できているものは少ないが、予算がなくてもできるものや、事業のDX化など検討することからスタートし、今後予算化し事業を展開していくことが必要である。	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

